

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月10日

【評価実施概要】

事業所番号	377110059
法人名	株式会社 アイ・ディー・エム
事業所名	グループホーム あすか
所在地	香川県東かがわ市川東88 (電話 0879-26-3015)

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年8月3日	評価決定日	平成20年9月10日

【情報提供票より】(20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 12年5月1日		
ユニット数	4ユニット	利用定員数計	36人
職員数	37人	常勤	25人, 非常勤 12人, 常勤換算 30.1人

(2) 建物概要

建物構造	S型 3階建 耐火建築造り 3階建ての2階～3階部分
------	-------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	9,575円	
敷金	有()円		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200円	

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	36名	男性	8名	女性	28名
要介護1	5名	要介護2	11名		
要介護3	9名	要介護4	8名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	64歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団聖心会阪本病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

3階建ての2階・3階部分をグループホームとし、2階はA・Bユニット、3階はC・Dユニットを配置しており、利用者、職員がユニット間を常に交流している。食堂・ホールはオープン形式になっておりケアステーションは2ユニットの共有で、前面はガラス張りで食堂、ホールが見渡せるようになっている。1階が通所リハビリになっており、グループホームの利用者で特浴が必要な方はここの特浴室を利用している。周辺には関連の病院や施設がある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>家族への報告については来訪時の現状報告、状態変化時は電話連絡をしている。また、家族の意見をよく聴くなど努力がうかがえる。食事については一括調理されたものが出されている。食事摂取量のチェックをしており、摂取量が減っている人には調理方法の工夫など対応している。また、家族と連携をとり好きな物を持って来てもらうなど工夫している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が評価の意義を理解し取り組んでいる。自己評価の改善点が非常に多く、現状満足していない職員の前向きな姿勢が感じられる。今回、特に理念を具体化したいという意向があるので、是非取り組んで欲しい。</p>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4)
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念「人と人とのふれあいを大切に、ここが自分の居場所となるように、一人ひとりの「こころの家」を、入居者とともにつくっていきます」を掲げている。	○	事業所の理念を、日常ケアの中で実践し易い、具体的な理念を考えていきたいの思いを実現するために、職員で話し合いをし、取り組んでいくことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝申し送りのときに全員で唱和し、理念の共有化をはかっている。	○	より具体的で実践し易い理念を考え、日々のケアの中で実践することを期待したい。理念の掲示はされているが、家族や地域への発信はあまりしていない。家族会や、運営推進会議などで常に発信し理解が得ることが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会に参加し、玉入れ競技などに参加している。秋には獅子舞の訪問があり入居者は楽しみにしている。また、小学校との定期的、継続的交流も行われている。	○	地域とのつきあいを施設側から積極的に取り組んでいきたいという意向があるので、認知症の勉強会など、計画されることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	目的、意義を理解し職員全員で検討している。今回自己評価の改善点が多く、現状に満足しないという点を大切に前向きな姿勢がある。項目を絞って改善に取り組まれることを望む。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回、地域の人、家族、市の担当者、職員により開催している。現状報告、サービスの実際、評価への取組状況など施設側から提示し、意見を求めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当者との関係を密にし、意見を聞き、サービスの向上につなげていくよう努めている。市より介護相談員が月2回ホームに来て、連携を密にしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時には現在の状況を報告し、状態変化の時は電話連絡で伝えている。行事、職員の異動などについては毎月発行している「便り」を送っている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱は設置しているが、今までに出されたことはない。家族会も開催しているが意見は少ない。面会時に積極的に声を掛けて聞くように取り組んでいる。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動に関しては、入居者に安心して生活していただけるような体制を取っている。馴染みの関係をつくるため、常にユニット間で交流をしている。施設の構造上からも可能と考えられる。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各種研修会(内部、外部研修)に参加はしているが、回数が少ない。</p>	○	<p>職員は研修に積極的に参加したいという意欲を持っているので、研修計画をたて取り組まれることを期待したい。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在、研修で知り合った人たちとの交流が行われている。</p>	○	<p>今後同業者との交流は必要であると考えられるので、東かがわ市の3グループホームでつくられているネットワークを、活用していく取り組みを期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心してサービスが受けられるように、事前に家族の見学もしている。関連医療機関からの入所が約半数ということから、馴染みの関係がとりやすい。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から教えていただく場面もあり、会話が心がけ、共に支えあって生活できるように取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を尊重し対応している。家族からの情報(唄が好きな人、カラオケ、計算など)も参考にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一回のモニタリング、3か月に一度のアセスメントが行われ、家族の来訪時に話し合い、希望などを聞き、取り入れるように努力している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化があり、計画の見直しが必要と考えられる時は、その都度検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能について、現在は医療面に関してのみ対応をしている。往診、受診に同行、医療処置などに対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を確認し、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時によく説明が行われ、状態悪化時にはその都度、家族と医師と話し合いをして方針を決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	申し送り時、カンファレンス時にプライバシーの保護について、常に確認をしている。特に言葉掛け、人間の尊厳(トイレ、オムツ)、名前、個人情報の取り扱いなどについて注意をしている。	○	常に心配りをしているが、新しい職員に対してプライバシー保持の大切さを周知徹底するために、勉強会を開く予定にしているため、今後の更なる取り組みを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時の動作、排泄など、一人ひとりのペースにあわせた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は1階の厨房で作られたものが配膳されている。入居者の好みを把握し、嫌いなものについては別の献立で対応するなど取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回と決めているが、今日は入りたくないと言う人には、翌日対応するなど柔軟に支援している。	○	夏季に週2回という対応は辛いかと考えられるので、シャワー浴を1回入れるなど見直しを期待したい。また、入浴時間帯についても夕方から夜間希望についての対応を検討する取り組みが欲しい。脱衣所の整理をして心地よく入浴が楽しめるような工夫を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	コップ洗い、洗濯たたみなどその人ができる役割を持って、日々が過ごせるように支援し、職員は感謝の「ありがとう」を表現し、入居者の「笑顔」が見られるように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や日曜日には交代で買い物に出かけたり、家族と外出などもしている。	○	今後更に外出の機会を増やしていく取り組み、例えば初詣、花見など入居者の体調を考慮しながら、機会が増える工夫への取り組みを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	立地上、建物上、安全性から現状ではやむをえないとも考えられる。しかし事業所全体での検討を期待したい。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防による防火訓練、避難訓練などは実施している。関連施設との応援体制はできている。	○	地域での応援体制について、運営推進会議などで更なる協力体制づくりに努めて欲しい。施設の訓練時に地域の人に周知し参加を求めることも大切と考える。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスについては栄養士が管理している。一日の摂取量について常にチェックをしており、減少している人には、調理方法を検討したり医師に相談し対応している。また、家族が好きなものを持ってきたりしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖かい雰囲気づくりに努め、家庭に在るような気持ちになってもらいたいという思いから、ご飯はユニットごとに炊いており、においを感じてもらえるように取り組みをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望の物を置いてあり、個別性が尊重されている。家族にも馴染んだ空間づくりに協力していただき、居心地よく過ごせるように工夫している。		